

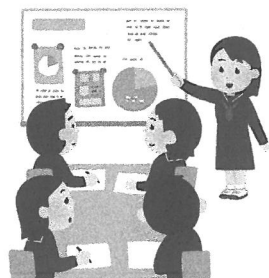


笹中だより

伊丹市立笹原中学校 学校通信
第4号 令和7年9月3日
発行 校長 甲斐 公美子

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

4月14日（月）と17日（木）、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、国語・数学・理科の学力や学習に関する生活習慣を把握し、今後の指導に活かすことを目的としています。7月に文部科学省より提供された回答結果をもとに、そこから見える笹中の傾向をまとめました。3年生には、お子様を通じて個票を今週配付いたします。ご家庭で確認いただき、学習のサポートにご活用ください。



1 調査結果

	国語	数学	合計	平均	理科 IRTスコア
笹原中	51.0	44.0	95.0	47.5	478
全国平均	54.3	48.3	102.6	51.3	503
県平均	54.0	49.0	103.0	51.5	505

中学校理科はタブレットを用いてオンライン(CBT)で実施。難易度ごとの正答状況で理解度を図るIRT方式による採点。

（本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です）

すべての教科（国語・数学・理科）において全国平均を下回る結果となりましたが、「地域の大人に勉強や活動に関わってもらった経験がある」や「授業でタブレットなどICT機器を活用した経験」は全国を大きく上回っています。さらに、「発表の工夫」や「総合的な学習の時間で課題を立てて調べ発表する活動」も全国より高い傾向にありました。これは、プロジェクト型学習の考えをもとにして、課題設定から発表まで取り組むことで、主体性・思考力・協働性を育成することができた効果ではないかと思われます。

一方で、学習を自ら振り返って深める姿勢、主体的に課題解決に取り組む力などが課題であることが分かりました。

結果から見てきた課題を、生徒たち一人ひとりの学びを支える工夫へとつなげていきます。そして、全教職員でこの結果を授業改善に生かしながら、自らの学びを振り返り、目標を持って主体的に取り組む力を育ててまいります。

2 各教科(国語・数学・理科)の結果分析・アドバイス



【国語】

国語の平均正答率は51.0%でした。全国の平均正答率は54.3%、兵庫県は54.0%で、本校は全国と比べて3.3%、兵庫県と比べて3.0%下回る結果となりました。

『話すこと・聞くこと』の分野である「資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題の正答率は38.9%でした。全国・県平均をそれぞれ+0.8%、+1.2%と上回っています。

また、「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題の正答率は79.4%であり、全国・県平均をそれぞれ+1.5%、+2.6%上回っています。授業でスピーチなどの発表や意見交流で考えを人に伝える練習をした成果が出たことがうかがえます。他にも、生徒質問紙の「国語の授業で文書を読み、その文章の構成や展開にどのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした人は、75.8%でした。全国、県と比べるとそれぞれ、+1.8%、+7.9%上回っています。これは、授業で意見を述べるだけでなく、その根拠まで深く考えることで身についた力だと考えられます。

一方で、『書くこと』の分野である「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題については無回答率が0.8%と低いにもかかわらず、正答率は25.4%と低く、全国・県平均と比べてもそれぞれ-5.6%、-4.5%と下回っていました。

「場面」や「伝える相手」を意識したうえで、伝えるべき「内容」と「根拠」及び伝える「順序」等の構成について、示された条件に従って文章化する経験が不足していたことが考えられます。今後は様々な実際の生活場面に即して文章を書く機会をもって、その「根拠」と「主張」の構成を考えて文章を書けるよう、さらに指導していきます。

この結果をふまえて、思考をめぐらせるような問題に慣れて、粘り強く取り組む力をつけていきましょう。そのためには、普段の生活場面で相手の立場を想像して、文章構成を工夫して伝える習慣をつけるとともに、授業の熟考する場面で、じっくりと自分と向き合い、思ったことやその根拠などをどんどん文章にしてみましょう。例えば、読み取った筆者の主張を書き表すこと、要約すること、表現の工夫や登場人物の心情を読み取って文章にすることなどが挙げられます。考えだけでなく、そのように考えた根拠も書き、それを読み手にどのように伝えと効果的かを検討することで、思考を整理することができます。学習方法に悩んでいる人は、積極的に相談してください。一緒に頑張りましょう。

【数学】

数学の平均正答率は44.0%でした。全国の平均正答率は48.3%、兵庫県県の平均正答率は49.0%で、本校は全国と比べて4.3%、兵庫県と比べて5.0%下回る結果となりました。

良いところは、記述問題の無回答率が全国、兵庫県と比べて少なく、粘り強く問題に取り組む姿勢が感じられるところです。授業では常に「なぜ？」を考えさせる機会をつくることを心掛けていたことの成果であると思われます。さらに記述問題5問中3問は本校の平均正答率が、全国、県の平均正答率を上回っています。また、生徒質問紙の「数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対して、肯定的な回答をした人は、79.9%でした。全国、県と比べるとそれぞれ、+3.7%、+6.6%と上回る結果になっています。また、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした人は、67.8%で、全国、県と比べると10~13%程度上回っています。これは、プロジェクト型学習を毎年実施することによって、実生活や実社会に関わる数学の授業を実施していた成果であると思われます。

学習内容別に見ると、「数と式」の分野では本校の平均正答率44.3%に対し、全国の平均正答率43.5%、県の平均正答率44.7%とほぼ同程度でした。しかし、「図形」の分野では本校の平均正答率40.5%に対し、全国の平均正答率46.5%、兵庫県の平均正答率47.1%、また「関数」の分野では本校の平均正答率44.4%に対し、全国の平均正答率

(裏へ続きます)

48.2%、県の平均正答率49.5%となっており、本校の平均正答率は全国、県の平均正答率よりも4～6%程度下回っています。「データの活用」の分野については本校の平均正答率48.4%に対し、全国の平均正答率58.6%、県の平均正答率60.0%となっており、10%以上下回る結果となりました。「数と式」に関しては、授業の最初に計算問題を中心とした、「3分間テスト」を授業時に日々繰り返し行ったことにより、苦手意識のある生徒に対して、少し力を付けさせることができましたが、まだ十分ではないと思っています。その他の「図形」「関数」「データの活用」で共通している課題は、数学用語の理解、基礎的な知識の定着ができておらず、生徒の解答には、例にない解答が多く見られました。改めて、基礎的な知識・理解に関する力を付けさせるために、既習事項の復習、反復して練習を行う必要があることがわかりました。

生徒質問紙の「数学の勉強は得意ですか」「数学の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をした人は、それぞれ54.8%、60.5%となっており、全国、県と比べるといずれも6～10%程度上回っています。また、生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、肯定的な回答をした人は、84.6%で、全国、県と比べると14～15%程度上回っています。しかし、平均正答率は全国、県と比べると下回ってしまっている結果になっています。数学への興味関心や意欲は感じられる結果となっているだけに、数学の勉強の力を付けさせることができれば、相乗効果が期待できるので、改めて授業改善に努めていきます。



【理科】

今回初めて、理科はコンピュータ端末を使ったIRT方式の調査になりました。IRTは、生徒の正答・誤答だけでなく、出題された問題の難易度や特性も区別して分析し、スコアを推定する方式です。結果は、IRTスコアおよびIRTバンドという形で返却され、個票では、IRTバンドと解いた問題の正誤が記載されています。

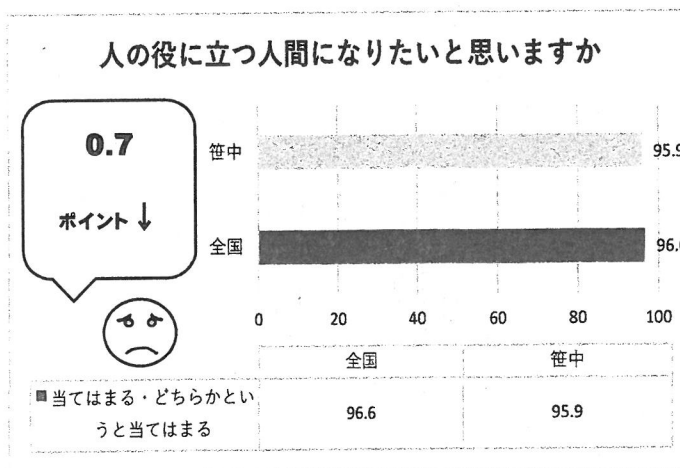
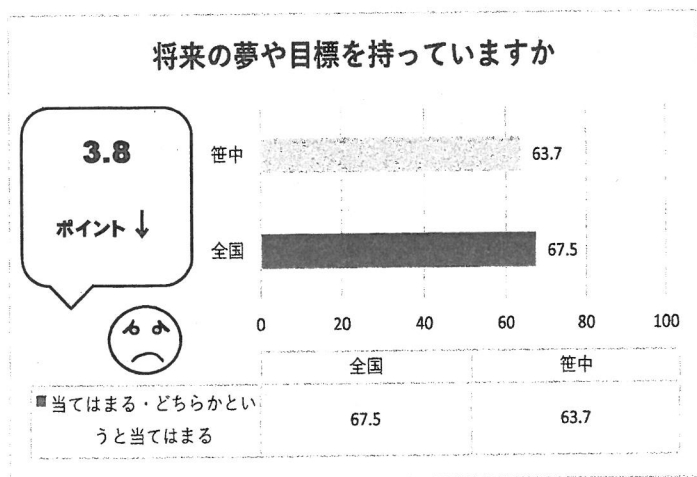
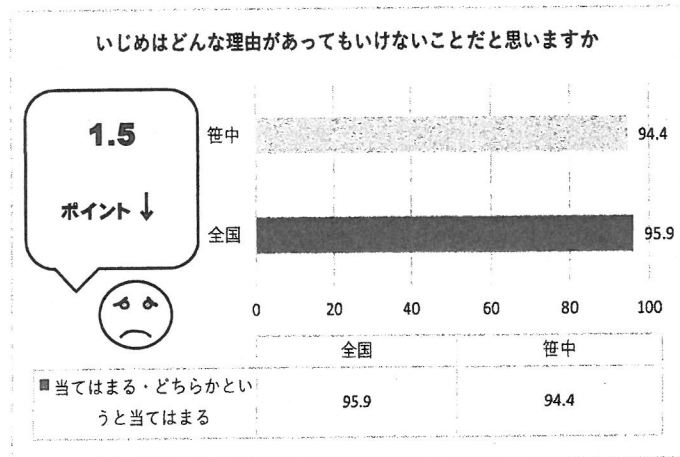
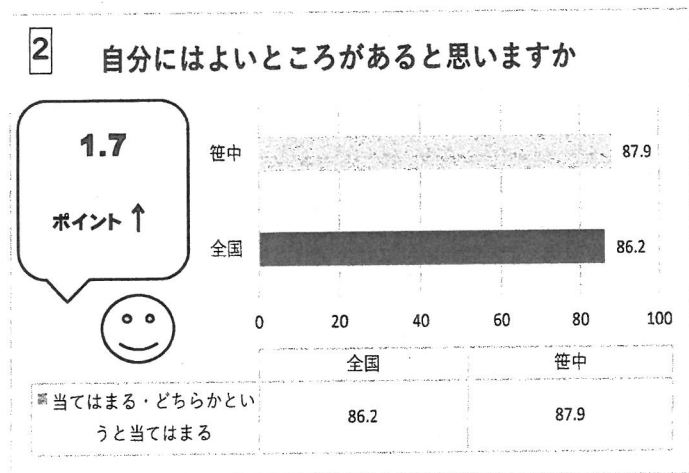
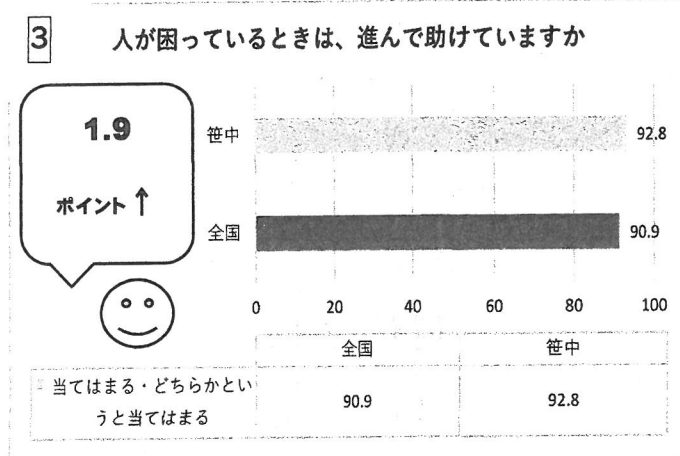
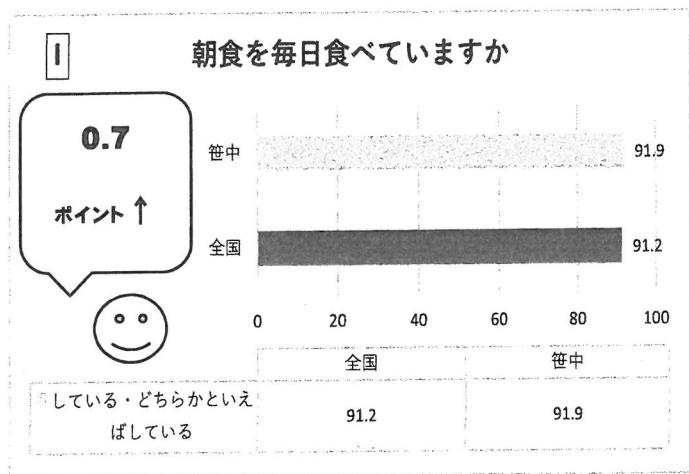
IRTスコアは、「500」を基準に各生徒の学力を数値化したもので、全国（503）、兵庫（505）、本校（478）となり、25ポイント下回る結果でした。また、IRTバンド（IRTスコアを1～5の5段階に区分し、3を基準に5を最も高いバンドとする指標）を見てみると、全国では、IRTバンドの4、5の割合は26.5%に対して、本校では、15.3%と低く、IRTバンド1、2の割合は、全国で31.5%に対して本校は、39.5%で8.0%多い結果でした。

出題された問題に注目してみると、一問一答の問題に関しては、全国、県とほぼ同等の正答率でした。また、一つの疑問に対して幅広く問う問題が多く出題されており、特に様々な分野に関連した問題に対しては全国、県の正答率と比べると正答率が本校は低い結果でした。化学の分野で、「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する問題では、正答率が全国（46.2%）、県（42.0%）、本校（34.7%）になり、生物の分野では、「生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」は、正答率が全国（29.7%）、県（29.7%）、本校（19.4%）となっていました。

これらの結果から、物理、化学、生物、地学の4分野が関連づけられた複合的な問題が苦手ということがわかりました。授業では、基本をしっかり身につけ、4分野を横断しながら日常生活につなげていくことが重要です。今後、様々な分野が関わっていることを気づかせ、実体験を伴う授業づくりに取り組んでいきます。

学習状況に関する調査結果について

この調査は、学習や生活に関する質問紙調査で、「学力に関する調査」と併せて行われました。質問は74項目ありましたが、その中の一部の結果をお知らせいたします。



※全国平均との比較を横グラフで表しています。

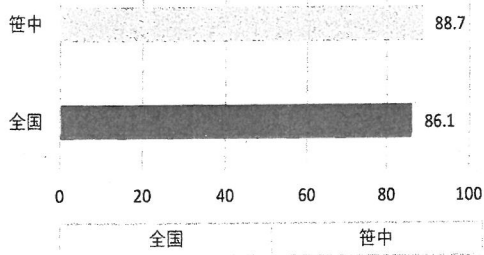
学校に行くのは楽しいと思いますか

2.6

ポイント ↑



■ 当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



■ 当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる

全国 府中

86.1 88.7

4

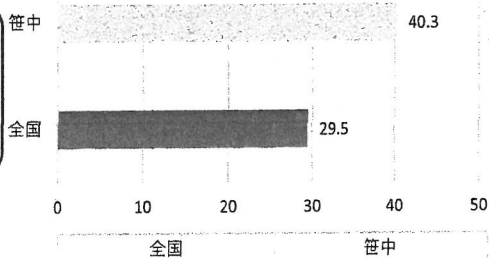
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）

10.8

ポイント ↑



■ よくある・ときどきある



全国 府中

29.5 40.3

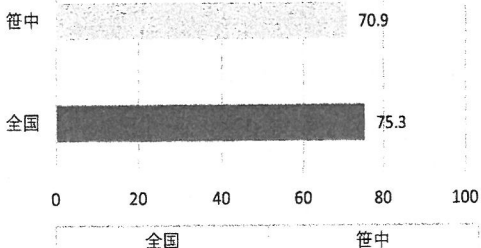
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

4.4

ポイント ↓

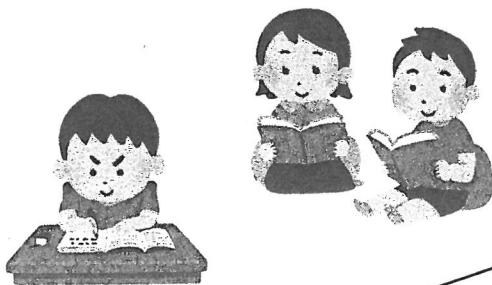


■ 当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



全国 府中

75.3 70.9



○読書・家庭学習の項目については、「あまりしない」と回答した生徒の割合を縦グラフで表しています。

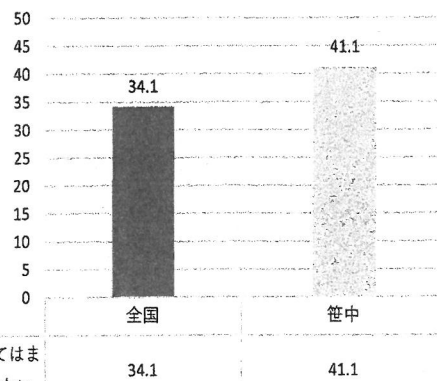
5

読書は好きですか

読書離れが
課題



■ どちらかという当てはまらない・当てはまらない



全国 府中

34.1 41.1

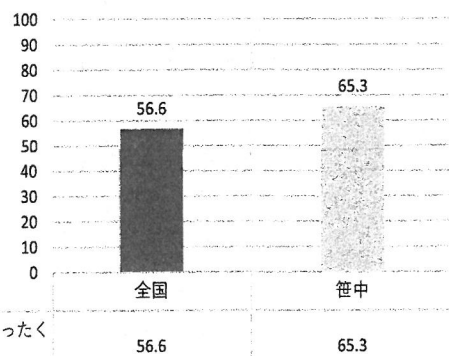
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間読書を読みますか

（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

読書離れが
課題



■ 10分より少ない・まったく
しない



全国 府中

56.6 65.3

6

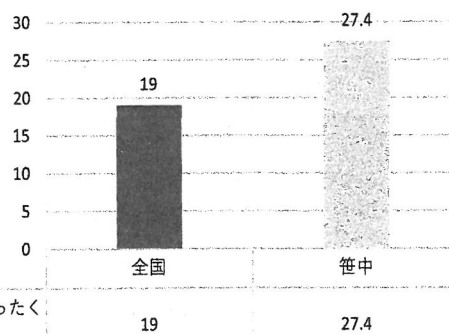
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間勉強をしますか

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

家庭学習の
時間の確保
が課題



■ 30分より少ない・まったく
しない



全国 府中

19 27.4

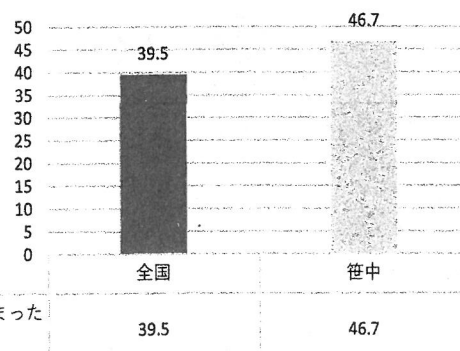
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

家庭学習の
時間の確保
が課題



■ 1時間より少ない・まったく
くしない



全国 府中

39.5 46.7

7

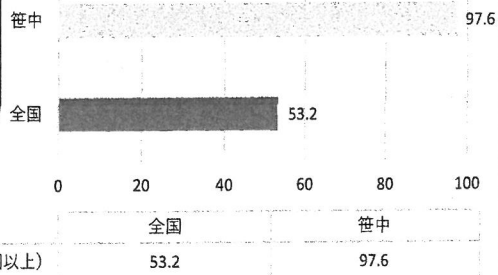
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どのくらい使用しましたか

44.4

ポイント↑



■ ほぼ毎日（1日1回以上）



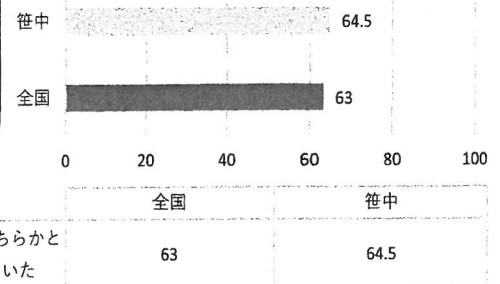
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

1.5

ポイント↑



■ 発表していた・どちらかというとな発表していた



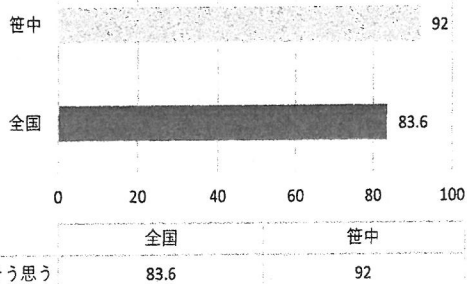
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか

8.4

ポイント↑



■ とてもそう思う・そう思う



8

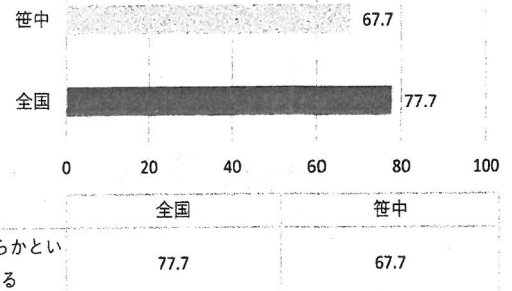
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

10

ポイント↓



■ 当てはまる・どちらかというとな当てはまる



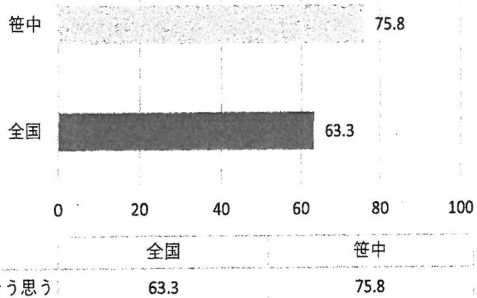
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

12.5

ポイント↑



■ とてもそう思う・そう思う



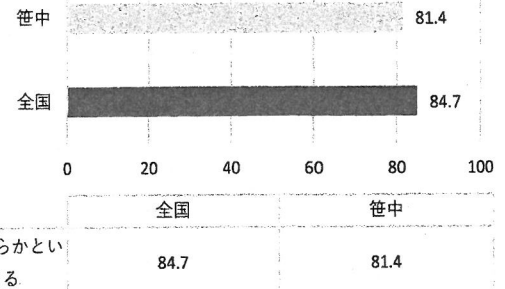
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

3.3

ポイント↓



■ 当てはまる・どちらかというとな当てはまる



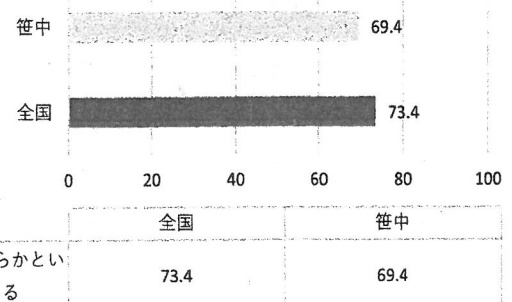
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

4.0

ポイント↓



■ 当てはまる・どちらかというとな当てはまる



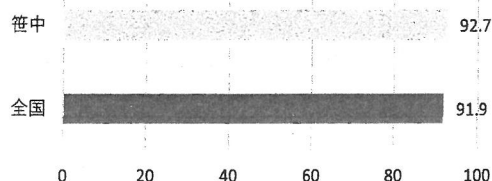
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に
して、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいますか

0.8

ポイント↑



■当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



全国	笹中
91.9	92.7

【今後の取り組みについて】

- 1 毎日朝食を食べている生徒は、昨年度は89.0%（全国：91.2%）でしたが、全国平均・昨年度笹中生より上がっています。家庭と連携し、睡眠を中心とした生活習慣の確立を図ります。
- 2 3 「自分にはよいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答が全国平均を上回っています。自他を大切に、思いやりに満ちた人間関係を築くため、道徳科を要とした道徳教育を推進します。豊かな感性を育む体験活動も引き続き行います。
- 4 地域の方々に見守っていただいている認識は全国平均を上回っていますが、「地域や社会のために何かしてみたい」については、全国平均を下回っています。今年度も「笹原まつり」へ、多くの生徒が運営のお手伝いに参加しました。地域への愛着や誇りを育む教育に取り組みます。
- 5 6 読書への関心・家庭学習習慣が全国平均を大きく下回っています。学校図書館を活用し、学校司書との連携により読書教育を充実します。
- 7 ICTの活用については、タブレットなどのICT端末を日々の授業でよく活用していることから、全国平均を大きく上回っています。情報・通信技術を適切に活用する力、調べまとめる力を身につけます。
- 8 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答が全国平均を下回っています。自分で考える場面を増やしたり、「どう考えたか」プロセスを振り返ったりする学びを進めます。
- 9 「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」の肯定的回答が全国平均を上回っています。プロジェクト型学習の考えをもとにして、課題設定から発表まで取り組むことで、主体性・思考力・協働性を育成していきます。

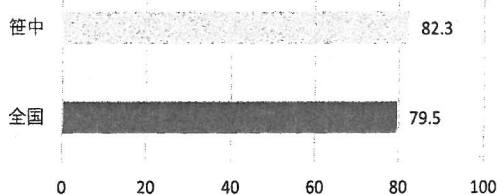
9 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

2.8

ポイント↑



■当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



全国	笹中
79.5	82.3

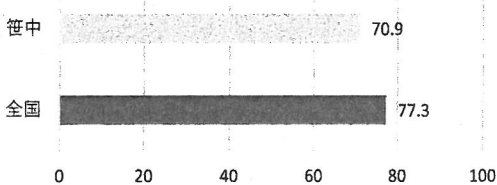
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

6.4

ポイント↓



■当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



全国	笹中
77.3	70.9

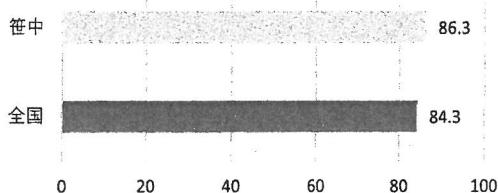
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

2.0

ポイント↑



■当てはまる・どちらかとい
うと当てはまる



全国	笹中
84.3	86.3